

Lightning



ニッポン旧車!

VINTAGE AUTO



本誌に変わらぬ魅力もあふれる。

販売店：ヤマハ自動車販売株式会社
〒250-0292 静岡県沼津市大森町1-1-1
TEL: 0554-58-7100

オートマエアコンと
バリバリワークス仕様
どちらも大人の
遊び道具だ。



Rocky GC110 With RB25 Turbo AT

Log #003

3

Enjoy
Skyline
Party!!



Rocky GC10 With RB20 SOLEX Works Replica

Log #003



巻頭特集のログナンバー3は、岡崎のプロショップ、ロッキーオートが
プロデュースした2台をご覧いただく。ケンメリのオートマとワークス仕様のハコスカ、
当時欲しかったオヤジが歯ざりしりしそうなマシンの登場である。



1.今では入手困難なGT4純正パーツをさり気なくあしらうことで、スポーツマインドを強調している。23前後のサスペンションはアラゴスタの特注で、フロントにはフルタップの車高調と、スイフトスプリングの10Kが組み込まれている。あくまでもストリートで速く、快適に走れることを追求したハイバースカイラインなのだ。



SPECIFICATIONS

エンジン●R33スカイライン RB25DET
 エアクリーター●トラスト グレッチェー
 サージタンク●トラスト グレッチェー
 スロットルボディ●インフィニティー Q45用φ90
 インタークーラー●ランエボ純正改
 サクシヨンプイプ●オリジナルワゴン
 エアコン●R33スカイライン純正改
 パワステ●R33スカイライン純正改
 ミッション●R33スカイライン5速AT
 Fショック●アラゴスタ特注フルタップ
 ピロアッパー
 Fスプリング●スイフトスプリング10K
 Fブレーキ●フレノF3キャリパー4ポット
 フローティング式スリットローター
 Rショック●アラゴスタ特注
 Rディスク●DF30純正ディスク
 デフ●R200L.S.D.

オートマでも
 本気で楽しい
 ハイパーノスタルジア



「もつと回してみてください」と、助手席に座ったメカニックが自信ありげに声を出した。高速道路にアプローチしてから数十キロを走り、混雑していた状況にややストレスを感じていた私は、やっと目の前の道がスコンッと抜けると同時に「メカニックからのラブコールをもらいたい、思わずアクセルを深く踏み込んだ。3000rpm前後でクルーズしていたマシンはスワップとキックダウンした瞬間にタコメーターの針が踊り、私の上半身はシートにベタッと張り付いた。6000rpm、7000rpmと針は踊り、なおマシンはダング加速する！ふと我に返り、やっと右足を緩めたころには「アウ

トパーンか？」と突っ込まれそうなる領域に達していた。

というわけで、今回の特集に合わせて、お馴染みロッキオートが用意してくれたケンメリは、過去に経験したことのない、全く異次元なワインディングテストを満喫できる興味深い仕上がりとなっていた。そう、エンジンコンパイトに合せて、なんとATミツシヨンを組み込んだ仕様なのである。確かに、速いワインディングカーをATで乗りこなすのはミッションにはない醍醐味がある。そこにはかつてマッスルカーと呼ばれたアメリカ車たちが闊歩した時に譲渡された、あの独特の男くささを感じる。また、週末だけのスペシャリティーカーではなく、日常にも使えるワインディングを考えた場合、AT仕様にする事で得られるメリットは大きい。こと首都圏で乗るならなおのことだ。

ロッキオートのアT仕様は、コンピュータのセッティングによってトルコンであることによるデメリットを打ち消し、リニアでトルクフルな走りを実現できる。また十分に速いマシンに必要な不可欠な高いレベルでのサスセッティングもなされており、乗り心地を損なうことなく、高速コーナーではしっかりと踏ん張る、頼りになるフットワークも確保している。オートマ、オートエアコン仕様で、ケンメリが涼しい顔をしてスッ飛ばなんて楽しい限りだ！



インテリアはGT4を意識したシンプルかつスポーティな仕上がりを見せる。またエンジンの搭載は走行性能を重視して、可能な限り低くマウントされている。



ケンメリ人気の理由はなんといってもこのユニークなボディ形状だ。大膽なスタイリングに大きなオーバーフェンダーやスポイラー、エアダムなどを装着することで、その迫力がさらに膨らんでいる。

Rocky GC110 With RB25Turbo AT

Log #003

3 Enjoy Skyline Party!!

搭載するエンジンはR33スカイラインのRB25DET。タービンはノーマルだがスロットルボディはφ90を装着する。



「もつと回してみてください」と、助手席に座ったメカニックが自信ありげに声を出した。高速道路にアプローチしてから数十キロを走り、混雑していた状況にややストレスを感じていた私は、やっと目の前の道がスコンッと抜けると同時に「メカニックからのラブコールをもらいたい、思わずアクセルを深く踏み込んだ。3000rpm前後でクルーズしていたマシンはスワップとキックダウンした瞬間にタコメーターの針が踊り、私の上半身はシートにベタッと張り付いた。6000rpm、7000rpmと針は踊り、なおマシンはダング加速する！ふと我に返り、やっと右足を緩めたころには「アウ





この車高では行けるところが……などと野暮なことを言っただけ。行けない所には行かない。これがワークス乗りの執念である……なんてね。もちろん車高は調整可能となっているので心配無用。それにしてもいい感じに仕上がった1台だ。

ガオガオッとやっつけてから、クオーンッといけは気分爽快！ キャップアイをクイッと避けるハンドリングに懐かしさを感じたら、もう立派なワインテージ乗りだ。BGMはもちろんKC&サンシャイン！



つたドレスアップカーという感じが強い。というのも、このテのマシンにありがちな、どこかで無理やり帳尻を合わせている部分が見当たらないからだ。全てのパーツがその機能を全うするべく、きっちりマウント、あるいは加工され、それらが総合してこのレーシーな雰囲気を感じさせているのである。

そんな好印象は、実際に走ってみるとさらに強まる。手足に触るもの動作はどれもみな優しく、初めてシートに座った人でも適度なドライヴができる。クラッチも、アクセルも、そしてステアリングの感覚も、実にしっくりと操れるのだ。ロッキイオートの「誰にでも楽しめるクルマ作り」という基本コンセプトは、こんな過激なルックスのマシンにもしつかりと脈打っていた。さらに、このクルマを好むドライバーの心を掻き立てるべく、あえてキャブレターをセットして吸気音を最高の演出道具としているあたり、50歳過ぎの不良の気持ちは人知れずメラメラと燃えるのであった。



GT-Rとレーシングカーのテイストをこころこ盛りにした1台。当然ながらディテールのこだわりも必要不可欠な要素となる。



前もこんなクルマが走っていたらほっきり置っただけ。でも好きモノにはたまらないリヤビューでもある。大人が本気で欲しいクルマだ。

Rocky GC10 With RB20 SOLEX Works Replica

Log #003

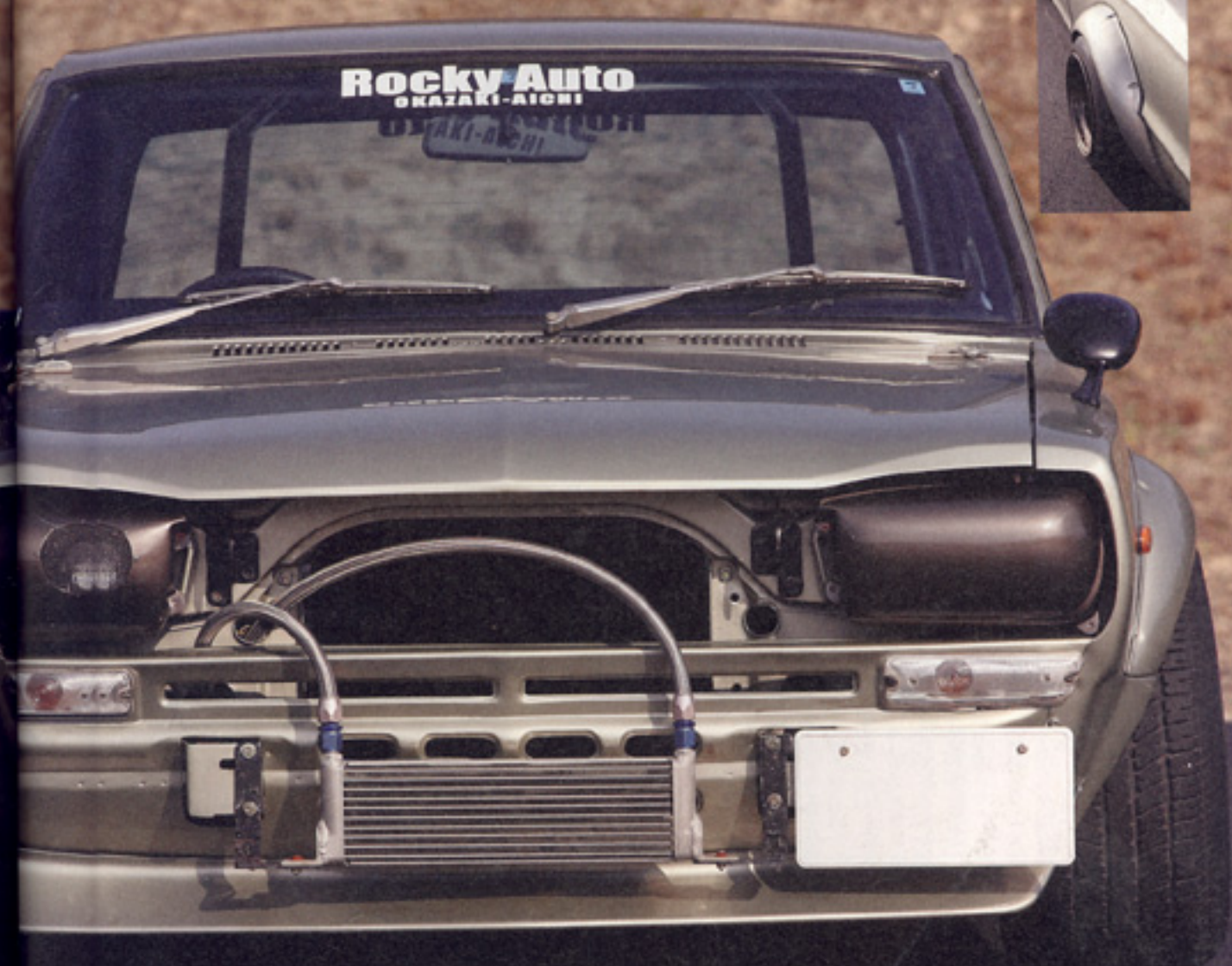
3

Enjoy Skyline Party!!

迫力のオーバーフェンダーはワークス仕様御座います！ 走ってるだけで夜な夜なパトカーに追いかけられた日々はもう過去の思い出。公認車両なので堂々とクルーズできる。



これぞ大人の遊び道具
ちよいワルなんてえモノじゃない!?



SPECIFICATIONS

エンジン●RB20DE
キャブレター●ソレックスφ44×3連装
マフラー●オリジナルステンレスデュアル
ロールオーバー●4点式
エクステリア●セミワークス仕様

RB20を搭載し、ソレックスのφ44で武装する。そのセッティングが絶妙で、喉のある音とともに全域に渡ってストレスなく吹き上げる音は素晴らしいの一言！

